

【愛南町】 校務DX計画

1. 現状

本町は令和5年度に校務支援システムを仮想環境へ移行し、システム管理やセキュリティ面で大きな改善を図った。ソフトウェアのインストールや更新作業の集中管理によって、効率的な運用が可能になり、システム障害時にも迅速な再構築が実現され、ダウンタイムを最小限に抑えることができるようになった。

また、仮想環境によるセキュリティ強化が図られ、生体認証の導入や独立した環境の提供によって、万が一のセキュリティ侵害発生時にも影響を最小限に抑えられている。加えて、アクセス権限の設定により、情報漏洩のリスクも低減され、より安全な運用が可能になっている。

今後は、クラウド化を前提とした教育情報セキュリティポリシーの改訂が求められ、教職員の負担軽減と業務効率化を目指して、さらに柔軟で効率的な運用を実現するために取り組む。

2. ペーパーレス化の促進

(1) FAX および押印の廃止

学校間および学校と教育委員会間でのFAXによるやり取りや押印については、一部を除き原則廃止としている。

(2) 汎用クラウドツールの活用

プラットフォームとしてのアプリ等を活用し、会議のペーパーレス化や教職員間の情報伝達の即時性向上を図る。

(3) 校務での1人1台端末の活用

校長会・教頭会などの会議や職員会、各種研修会において1人1台端末を活用し、ペーパーレス化を推進するとともに、校務全般で端末の積極的な活用を模索する。

3. 次世代の校務システムの導入に向けて

本計画は GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果を踏まえ、次世代の校務システムの導入に向けた検討を行う。

次世代の校務システムの推進には、技術面、運用面、意識改革の 3 つの視点から取り組み、段階的に導入する。現場の声を反映し、効果を検証して改善を進めることで、効率的な事務作業を可能にし、申請や承認手続きのシステム処理見直し、不要な行程の廃止を目指す。

また、校務系と学習系の連携を視野に入れ次世代校務環境を構築する。

本計画に基づき、校務 DX の効果的な推進を図ることで、業務効率化と教育の質の向上を実現する。